

高槻の景観特性

資料4

(1) 地形的特徴

高槻市は、北半部が丹波高地に連なる北摂山地へ楔形に侵入し、南半部は大阪平野の北部を形成する淀川低地へ伸びており、北摂山地と淀川低地とが接する中央部には、日吉台、安岡寺、南平台、奈佐原などの丘陵地がつづき、富田台地が南方へ突出している。

地形としては、山地、谷底平野、丘陵地、台地、沖積低地の5つに区分され、その特徴は以下のとおりである。

〔山地について〕

山地は市域の北半部を占め、大阪平野に臨む斜面は急峻であるが、山頂部は定高性が強く、高度700m以下の低山性山地ながら全体としては高原状の地形を呈している。

〔谷底平野について〕

谷底平野は北摂山地をきざむ川谷に沿って形成された小低地で、芥川源流の田能盆地、中流の原盆地や服部谷、桧尾川中流の成合谷などが該当し、北摂山地内の唯一の農業生産及び居住の場となっている。

〔丘陵地について〕

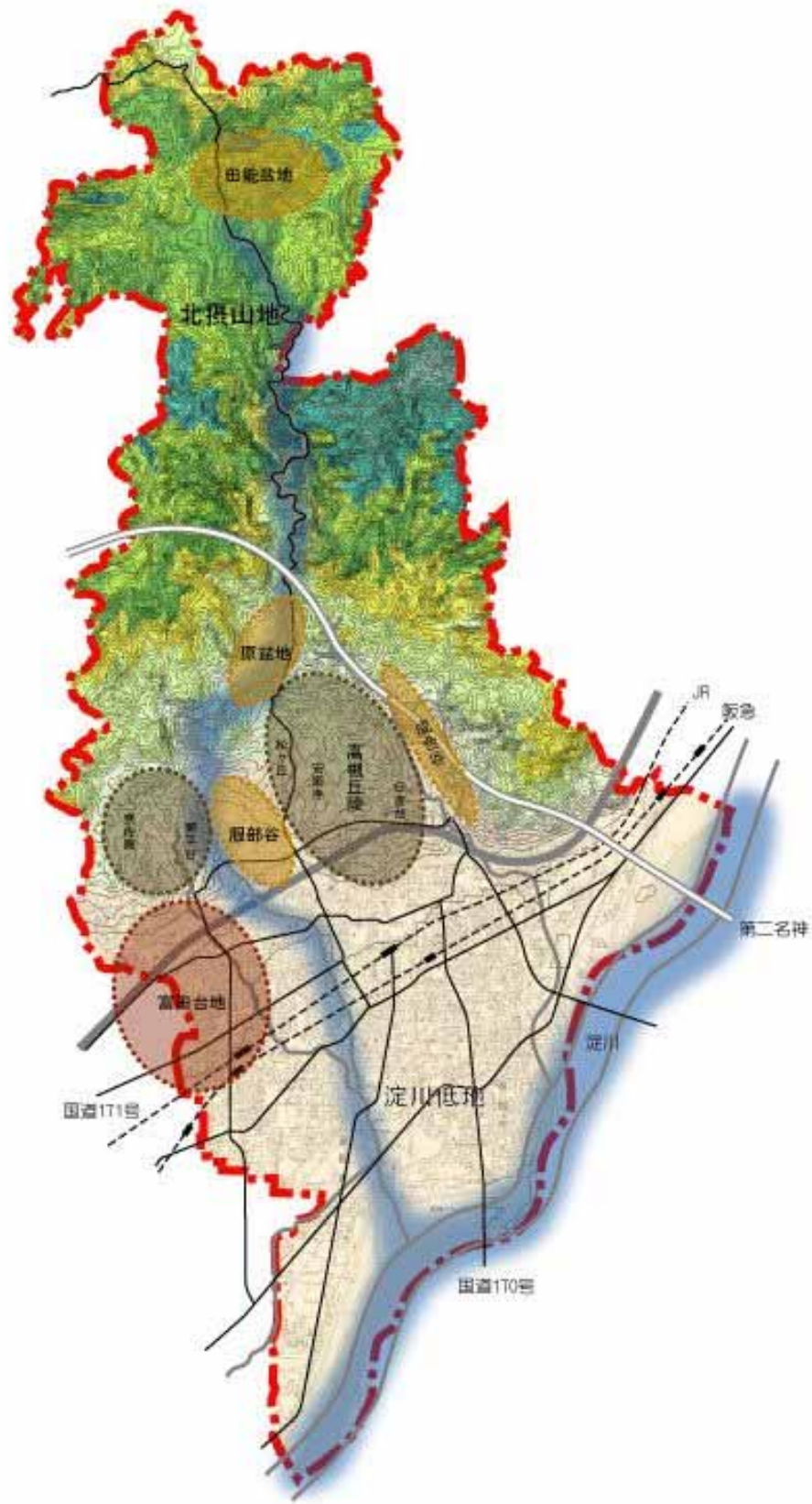
高槻丘陵は、大規模な宅地開発が進められ、日吉台、安岡寺、南平台などの住宅地が形成されており、唯一、原形を留めていた奈佐原地区においても、近年の住宅地開発により面影を失いつつある。

〔台地について〕

市内唯一の台地である富田台地では、その南東端に富田の古い歴史的なまちなみの面影を残している。

〔沖積低地について〕

市域南部に広がる沖積低地は大阪平野の北東部を構成する淀川低地の一部で、大部分が標高10m以下の低湿地で占められており、自然堤防は古い集落をのせる小規模なものが島状に散在しているに過ぎず、排水が悪い低湿な後背湿地や氾濫平野が広い面積を有している。



高槻市の地形的特徴

(2) 歴史的経緯

地形的特徴とともに、歴史的な経緯は、本市の景観の成り立ちにも大きな影響を及ぼしている。その歴史的経緯について時代ごとに概要を整理する。

〔旧石器時代から古代〕

- ・ 高槻市域では、旧石器時代から人類が住み付き、集団生活が営まれた。
- ・ 弥生時代には、淀川北岸・三島地方の米づくりが安満遺跡から始まり、安満遺跡は、弥生時代の大規模農耕集落であった。
- ・ 淀川北岸に展開する三島古墳群は、邪馬台国時代の安満宮山古墳、岡本山古墳・弁天山古墳や鬮鷄山古墳、そして今城塚古墳、阿武山古墳へと、古代国家の形成の経緯をたどる術となり、貴重な郷土の歴史遺産となっている。
- ・ 淀川河川敷の上牧と前島の間広がるヨシなどの大型湿性植物が群落する鷄殿は、紀貫之の「土佐日記」にも登場し、鷄殿を含む鷄殿村（現在の道鷄町・萩之庄・井尻・上牧）、三島江や玉川の里などとともに古くから歴史に登場している。



史跡安満遺跡

〔古代から近代〕

- ・ 高槻市では、古代から中世にかけての条里制の名残が垣間見られる。
- ・ 古代の摂津国嶋上郡を司る郡役所・嶋上郡衙や芥川廃寺が芥川西岸地区の山陽道に面して置かれた。郡衙西方の郡家今城遺跡、南方の津之江南遺跡などは郡衙と盛衰をともした集落跡である。
- ・ 京都：伏見から兵庫：西宮を結ぶ西国街道沿いには宿場として栄えた芥川宿があり、本陣や旅籠屋が立ち並んだ。
- ・ 前島浜・唐崎浜・三島江浜などの河港は、高槻城下や富田など周辺の村々と京都 - 大坂を結ぶ物資の集散地であり、交易の拠点であった。
- ・ 富田の古いまちなみは 15 世紀後半に浄土真宗の布教拠点として寺内町が形成され、中核となった教行寺周辺にその名残がうかがえる。
- ・ 江戸時代には良質の水に恵まれ、酒造業が栄えた。
- ・ 芥川山城は三好長慶・細川晴元らが、高槻城は高山右近らが歴史上に名を残している。近世以降、山城から平城に移り、高槻城は戦略的な要所として拡充整備され、江戸時代には城下町の発展に力が注がれた。



高槻城址絵図

〔明治から昭和30年代頃〕

- ・ 明治9年には京都 - 大阪間の国有鉄道が開通し、停車場を核とし、駅前に町が発達、企業の立地や住宅地開発が行われた。
- ・ 一方、陸上交通の発達により淀川水運は衰退し、江戸時代から明治時代にかけて京都 - 大坂の旅客輸送を担っていた乗合船（三十石船など）が姿を消した。
- ・ 三島江や玉川の里などの歌枕にも詠まれた名勝が堤防改修などにより失われた。
- ・ 昭和3年に現阪急電鉄が開通し、高槻市駅が開場して、富田駅や高槻市駅の駅徒歩圏での宅地開発が進んだ。
- ・ 昭和30年代にはいと、天王町や昭和台町などの鉄道会社により造成された駅周辺の住宅地では、碁盤目状の街路が整備され、生垣に囲まれた住宅などが立ち並び、現在における市街の中核をなしている。
- ・ また同時期には、大阪府による府営住宅地の整備も行われた。
- ・ 昭和20年代終りから企業誘致が進み、国道171号沿道には、サンスター、明治製菓、松下電子など大手の工場が進出し、西の茨木、東部の島本町へと国道沿いの内陸の京阪工業地域を形成するに至った。



天生町のまちなみ

〔昭和40～50年代頃（高度経済成長期）〕

- ・ 昭和30年代終り頃から40年代にかけ、大阪市・京都市のベッドタウンとして、丘陵部を中心に比較的規模の大きい住宅地開発が進み、中南部では農地の転用による住宅と企業用地の開発が進み人口が急増した。
- ・ 一方、人口急増に伴うスプロールを防止するために、昭和43年に新都市計画法が施行されるとともに、高槻市でも昭和46年に開発指導要綱などを整備し良好な都市形成に取り組んだ。
- ・ 昭和40年代に戸建住宅を主体とした南平台や日吉台、昭和50年代に高見台などが開発され、敷地規模が大きく計画的に開発された住宅地が形成されている。
- ・ 昭和40年代に駅周辺の上牧地区周辺が戸建住宅地として開発され、市中南部ではスプロールの拡大した戸建住宅地や敷地規模の小さいミニ開発が広がっている。
- ・ 公的住宅団地や大規模に開発された民間住宅開発地では、比較的整然とした住宅地が形成されている。



市南部の公営住宅団地

〔昭和60年代以降〕

- ・ JR高槻駅北地区では市街地再開発事業により、駅前広場や周辺関連道路などの都市基盤をはじめ、都市型住宅や商業・業務施設の整備が図られた。
- ・ JR高槻駅周辺の中心部ではマンションの立地が増え、商業施設や業務施設の集積とともに新たな市街地形成が進みつつある。
- ・ 阪急上牧駅北地区においては、住宅を主体とした良好な新市街地の形成を図るために土地区画整理事業による道路、公園などの都市基盤が整備されており、市東部における新たな拠点形成が図られつつある。



市街地再開発事業による拠点市街地
(高槻駅前)



土地区画整理事業による新市街地
(上牧駅周辺)

- ・ 今後の主要事業としては、都市再生特別措置法に基づく都市再生緊急整備地域に指定された JR高槻駅北東地区(株)ユアサ コーポレーション高槻工場跡地(平成17年3月に閉鎖)とその周辺を含んだ区域)において、高槻市の中心部に賑わいや潤いのある商業、業務、居住、福祉、文教、交流機能等の集積を図る、民間プロジェクトが予定されている。

高槻市の景観の特徴

本市は、北部の北摂連山と南部を流れる淀川に市街地が囲まれ、中央部を南北に芥川などの河川が流れ、山間部や丘陵部の盆地では里山と集落が織り成す癒しの風景に触れる事ができるなど、全市的に自然豊かな景観が形成されている。

また、旧石器時代の人々の生活を垣間見ることのできる数々の遺跡や中世の歴史を感じる事のできる城跡公園周辺や西国街道、富田の旧寺内町などの歴史的街並みによる趣のある景観も残されている。

市南部では高度経済成長期に建設された公的住宅団地では老朽化が目立つが、市北部には敷地規模の大きな良好な住宅地が形成され、また駅周辺の市中心部における市街地景観など、新たな街並みが形成されつつある。

このような高槻市の地形的特徴や歴史的経緯などを踏まえ、本市は「自然的景観」、「歴史的景観」、「市街地景観」の3つを軸とした景観類型に分類できる。

高槻市の景観類型

自然的景観	森林のある地区	北摂連山
	農地里山のある地区	丘陵部に散在する盆地 山間部の盆地 淀川低地の農地
	河川沿いの地区	淀川・芥川・桧尾川・女瀬川
歴史的景観	歴史的な趣のある地区	西国街道沿いの地域 富田地域、高槻城址周辺 指定文化財、神社・仏閣 古民家、町家
	古墳・遺跡のある地区	古墳・遺跡
市街地景観	住宅地区	
	駅周辺の地区	JR、阪急駅周辺
	幹線道路沿道の地区	国道 171 号、170 号 府道大阪高槻線

景観特性

